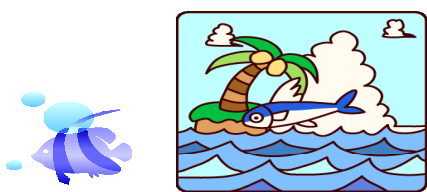


令和4年6月30日



界の子



もう梅雨が明けてしまいました

今月27日、まだ6月中というのに、早々と関東甲信地方の梅雨明けが発表されました。統計開始以来、最も早い梅雨明けだそうです。水田にたくさんの水が必要なこの時期、農作物への影響が心配ですね。また、夏休みのようなこの暑さの下で、教育活動も継続ということで熱中症も心配です。登下校はもちろん、屋内外でのスポーツ活動では、原則マスク着用はしないこととなりました。一方で、電力供給の不足も重なり、節電にも協力が求められています。なんとも重苦しい梅雨明けです。

そんな折、最近気になることがあります。この猛暑の中、登下校やスポーツ時にマスクを外すように子供たちに声をかけていますが、なかなか外せない子もいます。家庭の事情や感染の恐れから、外さないよう言われている子もいるかと思いますが、そうではない限り、熱中症防止のためにメリハリのある生活様式を心がけたいと思いますので、登校の際にもマスクはポケットにしまうよう、お声かけください。

近視実態調査から

この度、文部科学省が初めて実施した「近視実態調査」の結果が報道されました。2021年度に小中21校7、400名を対象に行われたものです。視力0.3未満の児童は、小1では男子1.00%、女子1.67%ですが、小6になりますと男子19.16%女子22.99%、そして中3では男子25.52%、女子35.61%となり、眼鏡やコンタクトレンズ装着率は男子4割、女子5割という結果でした。専門家の話として東京医科歯科大学の大野京子教授は「スマホなどの小さな画面を見ることが影響している。身長が伸びる時期は眼軸長（眼球の奥行き長さ）も伸びる傾向がある。」と指摘しています。（6月25日読売新聞より）「近視は、30cm以内の近い距離のものを見る時間が長くなると進行する」と言われています。また、近視を防ぐ鍵は「太陽光（野外活動）」にあるとも言われています。週に11時間以上明るさ1000ルクス以上の光を浴びることで近視の発症を抑えられるとの報告もあります。



本校においても、2019年度（令和元年度）眼視力B以下の児童が16.3%でしたが、今年4月の結果では、なんと27.7%とかなりの増加がみられました。これを受け、昨年整備された一人一台タブレットの使用について、なるべく休み時間は使用しないで、屋外で活動する時間を増やす工夫を行いたいと考えています。もちろん昨今の猛暑時には控えますが、ご家庭でも、スマホ等の使用について、近視対策という点から話し合ってみてはいかがでしょうか。



